

# 心をよつめる。

第二十三

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように……。

## 本当の出会い

仏教では、「出会い（であい）」について二通りの出会いがあると教えています。一つは「見遇（けんぐう）」という出会い方、もう一つは「聞遇（もんぐう）」という出会い方です。

一つ目の見遇とは、「面と向かってあう」というような場合の出会い方です。つまり、目の前に対象がいるような出遇い方です。私たちが普段「であい」と聞いて連想するのは、こちらの見遇ではないでしょうか。しかし、仏教では見遇の他に聞遇という出遇い方もあるのだといえます。

では、聞遇とはどのような出遇い方なのかといえますと、「心と心のであい」です。つまり、対象が目の前におらずとも、その方の心を聞き、心に触れる時、すでにその方との出遇いがそこに成立しているのだとい



うのです。

以前、次のような親子のエピソードを聞かせていただいたことがあります。

K子さんには、離れて暮らすお母さんがおられました。大変元気な方でしたが、晩年、しだいに認知症のきざしが表れたため、老人保健施設へ入所をされたそうです。

ある時、Kさんは施設に入所されているお母さんをドライブに連れ出しました。その帰り道、お母さんがKさんに向かっておっしゃったそうです。「その角を曲がって！家はそっちだから」と。確かに、家は角を曲がったところにありましたが、施設に戻るには真っ直ぐ進むしかありません。そこで、Kさんは真っ直ぐ施設に戻ろうとしましたが、お母さんが再度おっしゃったそうです。「お願いですから曲がってください！



浄土真宗本願寺派  
西門寺衆徒  
熊罥信行 様

「敷居の低いお寺を目指しています」



西門寺  
遠賀郡岡垣町三吉869  
TEL 093-282-6765

んの姿はありません。しかし、あのお母さんの親心を思い出す度に、すでにお母さんとの出遇いがそこに成立しているのです。いえ、Kさんだけではありません。私たちがまた、大切な方々の心を聞き、心に触れる時、すでにその方との出遇いが成立しているのです。これが、仏教が教える聞遇という出遇い方です

やがてお母さんはご往生され、十年以上の月日が経ちますが、Kさんはあの時の出来事をよく思い出すのだそうです。そしておっしゃいます。「母には感謝しかないです」と。生老病死の人生を歩む中で、身体が思い通りにならなくなったとしても、子を想うお母さんの親心が確かにそこにはありました。Kさんは、その親心を聞き、親心に触れていかれたのですね。

今、Kさんの目の前にはお母さ